

脳神経外科学総論

【Introduction to Neurosurgery】

担当責任者 教授（脳神経外科学） 山本 淳考

ねらい

神経系の正常構造と機能を理解し、脳・神経系の特性を認識する。この講義では、神経解剖、神経生理、神経病理、神経化学・薬理学などを学ぶことにより、神経学、脳神経外科学の総論的な知識を身につける。これらを学ぶことにより脳・脊髄の局在診断や神経症候の理解が可能になる。

脳神経外科学総論の講義は、主要な脳・神経疾患に関する病態生理、原因、症候、診断と治療を学ぶ。

学修目標

1. 脳・脊髄と頭蓋・脊椎の解剖を復習し、脳血管の走行・支配領域、及び髄液腔との関係を理解し、特に大脳基底核、脳幹、脊髄部では横断面の解剖を図示できる。(Ⅱ-1)
2. 脳・脊髄の局在機能を理解し、主要神経症候と神経解剖学的病変部位を説明できる。(Ⅱ-5)
3. 基本的な神経学的診察法を述べる事ができる。(Ⅱ-6)
4. 主要な脳・神経疾患の病因、病態生理、鑑別すべき疾患を列挙することができる。(Ⅱ-1, Ⅱ-5)
5. 主要な脳・神経疾患に対する検査の適応・禁忌と、その意義を述べる事ができる。(Ⅱ-6, Ⅱ-9)
6. 主要な脳・神経疾患に対する治療の基本について説明できる。(Ⅱ-6)
7. 外科治療の対象となる疾患(腫瘍、血管障害、外傷、先天奇形、感染症、機能的疾患)にどのような病態があるかを学習し、それぞれの疾患に対する診断法を述べる事ができる。(Ⅱ-1, Ⅱ-5)

事前事後学習の方法

1. シラバスに記載されている授業項目について、参考書などで事前に予習しておくこと。
2. 配布された講義プリントを参考にして、講義内容の復習をすること。

成績評価方法・基準

1. それぞれの講義終了時に、講義内容の理解度チェックのための小テストを行う。
2. 小テストの結果をもとに、A, B, C, D, Fの5段階評価とする。

○教科書

児玉南海雄/峯浦一喜 監修「標準脳神経外科学」(医学書院)

○参考書

太田富雄・松谷雅生・野崎和彦編 「脳神経外科学」(金芳堂)
 田崎義昭・斎藤佳雄著「ベッドサイドの神経の診かた」(南山堂)
 日本脳卒中学会編 「脳卒中治療ガイドライン2015」(協和企画)
 日本脳腫瘍学会編 「脳腫瘍診療ガイドライン 2019年版」(金原出版株式会社)
 松谷雅生・堀智勝・浅野孝雄編集 「脳神経外科手術のための解剖学」 メディカルビュー社
 後藤文男・天野隆弘著 「臨床のための神経機能解剖学」(中外医学社)
 宜保浩彦著 「臨床のための脳局所解剖学」(中外医学社)
 D.N. Louis 「WHO Classification of Tumours of the Central Nervous System」(WHO)
 A.L. Rhoton, Jr 「Rhoton's Cranial Anatomy & Surgical Approaches」(Oxford University Press, Inc)

講義:2208講義室

年月日	曜日		授業項目(内容)	コアカリ項目			担当者
				大項目	中項目	小項目	
R3.10.11	月	5・6	脳神経外科で扱う主な疾患 小テスト	D	2	4	山本 淳考
10.13	水	5・6	脳神経外科救急 小テスト	〃	〃	〃	宮地 裕士
10.14	木	5・6	脳神経外科に必要な脳・脊髄の解剖 小テスト	〃	〃	1	宮岡 亮
10.18	月	7・8	脳神経画像の基礎知識 小テスト	F	〃	7	〃